

福島県三島町

広報

平成 28 年 3 月 4 日発行
(毎月第 1 金曜日発行)

Public relations
of Mishima-town,
Fukushima in Japan

みしま

2016

March

3

No 276

国指定重要無形民俗文化財
「三島のサイノカミ」再現





3

2

1



7



6



5



4



11



10



9



8



13



12



14

1.2_ サイノカミを立てた松原、川井地区の皆さん 3_ サイノカミ立て（写真は中学生） 4_ サイノカミ立てを体験した四倉地区の子どもたち 5_ 開会の挨拶をした板橋健也観光協会会長 6_ 色とりどりに飾られた団子さし 7_ 雪の中で楽しい一日を過ごした子どもたち 8_ 雪上ストラックアウト 9_ 人権擁護のPRの様子 10_ アンコウのつるし切りを披露した若松光さん（いわき市四倉） 11_ 採火式を執り行った若林正光さん（滝谷） 12_ 鳥追いと松明行列の様子 13_ 勢いよく燃えたサイノカミと、願いを込めて打ち上げられた花火 14_ くじ付きのみかんまきで福を引き寄せました



第44回 雪と火のまつり

3月
目次

- 2 第44回雪と火のまつり
- 3
- 4 TownNews みしまの出来事
- 5 保育所で節分の豆まき / 流しびな作りを体験 / 雪上に広がる歓声 / 保育所そりのり大会 / 三島町の農業について話し合う / 若松三島会総会・新年会開催
- 6 町民記者通信
- 7 「スキーバッジテスト」行われる / 世界に一つだけの? 「コースター」出来たよ / 川井友愛サロン 2月の行事 / 高清水地区に伝承されている「百万遍」 / 「輪投げ・豆まき大会」行われる間方地区 / 幻想的な光に包まれた雪の野づら川井
- 8 みんなの公民館
- 9 町史
- 10 民話
- 11
- 12 各種お知らせ
- 13
- 14 町内各地でボランティアが除雪支援・町民記者 / 町長日記

第44回雪と火のまつりは2月13日、町民運動場で開催され、国指定重要無形民俗文化財「三島のサイノカミ」の再現をメインに、様々なイベントが行われました。

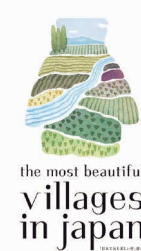
会場では朝から、松原地区と川井地区の方々がサイノカミ作りを行い、高さ20メートル以上の御神木を立てました。

また、大登地区の方々の指導のもと、三島小・三島中の児童生徒といわき市四倉からは約50名が訪れ、サイノカミ作りを体験したほか、普段は体験できない雪の中でのイベントを満喫しました。

団子さしには老人クラブ女性部の皆さんが協力。また、御護符もちが町内旅館宿泊客にも配

られました。そのほかに、会場では模擬店や楽しい雪上イベント、みかんまきなども行われ、子どもからお年寄りまで参加して楽しみました。

町内外の142業者が協賛してくださり、歴史と伝統ある雪と火のまつりの開催を支えていただきました。



福島県大沼郡三島町 みしままち

三島町は、福島県の西部を流れる只見川沿いの小さな町です。優良な「会津桐」の産地として知られるほか、小正月の行事「サイノカミ」や、野山の材料で作る「編み組細工」などの伝統が受け継がれ、「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。



雛流し



スキー場でソリ乗りを楽しむ子どもと保護者

保育所ソリ乗り大会

子どもたちが元気に滑走

三島保育所ソリ乗り大会は2月19日、町営スキー場で行われました。子どもたちはソリを持って斜面をどんどんかけ登り、元気よく滑っていました。保護者の方々も子どもたちと一緒にソリに乗り、楽しいひと時を過ごしました。また、ソリ乗りの他に、お菓子拾いなど楽しいイベントがありました。当日は、最高の天気恵まれ、スキー場に子どもたちの歓声がこだまし、笑顔があふれていました。



子どもたちが豆をまき鬼を退治しました

保育所で節分の豆まき

鬼は〜そと、福は〜うち！

三島保育所で2月3日、節分の豆まきが行われました。子どもたちが集まったお遊戯室に、鬼が雄叫びを上げて登場し、子どもたちは勇気を出して豆をまくと、鬼はこっそり逃げていきました。続いて子どもたちが鬼の役と豆まきの役に分かれ、各部屋で豆まきを行い、保育所に福を呼びました。また、年の数だけ豆を食べ、健やかな成長を願いました。



本協議会会長（矢澤町長）のあいさつ

三島町の農業について話し合う

三島町地域農業再生協議会

三島町地域農業再生協議会が2月18日に開催されました。各集落の農事生産組合長、認定農業者等が出席し、27年度の実施状況と28年度の方針についての協議と、東北農政局や会津坂下農業普及所との意見交換を行いました。



流しびな作りを体験しました

流しびな作りを体験

「桐の子隊」

児童が放課後に各種体験を行う「桐の子隊」は2月18日、三島小1年生・2年生が参加し、町民センターゆめぼけつとで行われました。高清水地区で受け継がれる年中行事「ひな流し」の流しびな作りを体験しました。高清水地区の方々が講師となり、千代紙で雛人形を作りました。「ひな流し」は毎年3月4日に行われ、ほかでは見られなくなった貴重な年中行事であり、町外からも見学者が多数訪れています。



新年会では会員同士が親睦を深めました

若松三島会総会・新年会開催

会員が懇親深める

三島町出身の会津若松市近郊に在住される方々が集う若松三島会の総会は、2月28日に会津若松市の会津迎賓館で開催されました。矢澤町長が当町のまちづくりについて講演を行い、その後新年会には、会員の方々と町長、町議会議員など、約55名の方が参加し、ふるさと三島町の話で懇親を深めました。



スノーフラッグヒップアップレースの様子

雪上に広がる歓声

第22回すってんコロリンピック

すってんコロリンピックは2月27日、町営スキー場で開催され、子どもから大人まで約50名が参加し、楽しい種目に熱戦を繰り広げました。スノーフラッグヒップアップレースやゲレンデの上から一斉にまかれるスーパーみかん拾いなど、他のスキー場では体験できない楽しいイベントが行われ、子どもも大人も一緒に参加して楽しみました。また、昼食は地域の方々がカレーライスや焼きそば等を販売し、イベントを盛り上げました。



高清水地区に伝承されている「百万遍」

文・写真 町民記者 菅家敏一さん（高清水）



心を込めて大きな数珠を回しました

立春も過ぎ、春に向かっていく2月7日に大きな数珠を持って各家庭を巡る「百万遍」が行われました。「魔除け」、「厄除け」、「疫病除け」のため、家の方々と一緒に「なんまいだ・なんまいだ」と唱えながら、一生懸命に心を込めて大きな数珠を回していました。数珠には、鎮魂・追善・豊穰・除災等の思いが込められているようです。小さな地区の行事ではありますが、継続していければと思います。また、3月4日の「雛流し」のための準備も進められています。



「輪投げ・豆まき大会」行われる間方地区

文・写真 町民記者 菅家壽一さん（間方）



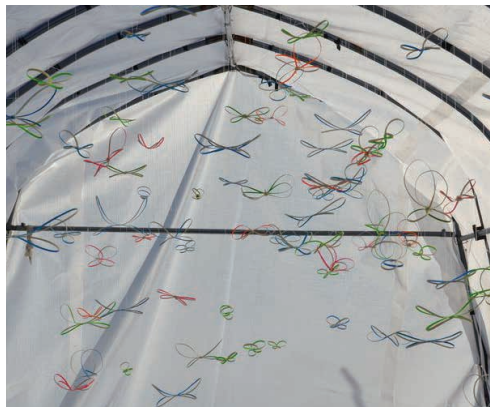
参加者全員で賑やかに豆ひろいを行いました

2月6日、間方地区では、美女帰の里まがたと老人クラブによる「輪投げ・豆まき大会」を行いました。これは、ふれあいリフレッシュ事業として、町社会福祉協議会からの助成を受けて実施しているもので、冬期間は、家の中に閉じこもりがちで、地区民どうしがふれあう機会が少ないこと、かつて節分には、子ども達が家々を回って賑やかに豆ひろいをしていましたが、今は子どもが居なくなってしまいその風景が見られなくなってしまったことから、高齢者だけでも豆まきを楽しもうと行っているものです。開会式、準備体操、そしてチーム編成をして、和気あいあいの中にも豪華賞品をかけた真剣勝負の輪投げ大会が行われました。輪投げ大会終了後、優勝チームが豆やお菓子をまき、参加者全員で賑やかに豆ひろいを行いました。その後、豆やお菓子を食べてお茶を飲みながら振り返り、「童心に帰って楽しかった」、「もっと沢山参加してほしい」等の意見が出されました。



幻想的な光に包まれた雪の野づら川井

文・写真 町民記者 角田伊一さん（川井）



ビニールハウスに仕掛けたアート作品

2月8日から14日までの1週間、川井下居平地区の雪原が幻想的な七色の光に包まれました。東日本大震災と原発事故で傷つけられた福島県を再生させる目的で組織された「森のはこ舟アートプロジェクト」事業の一つ「森・光・水」部門の展示が川井地区を会場に開催されたものです。筑波大学の先生と学生が、約半年かけ工夫考案した光の展示物を、地元の自然エネルギー研究会員の作成した小水力発電機で発電した電気で発光させ、雪原や土蔵、ビニールハウスに仕掛けたアート作品をみごとに完成させたのです。「かわいのすがた」「奥会津のルリ」「囲い」「雪で育つ春」の4部門は学生、「光と影」は指導者逢坂卓郎特任教授の作品で、使い終わったサデ細木やマタタビかごなどの道具に感謝を込め、雪の下で春を待つ草木のたくましさ、川井地区特産の蝶キマダラルリツバメの妖艶なきらめき、命のみなもとハウズキの妖しげな色合い、雪原の森を淡い七色の光に包む光景を通して、雪中の生活に耐えながらも躍動の春を待つ川井地区の姿を表現して下さったものと、感謝、感動しながら鑑賞する人々であふれる1週間でした。



「スキーバジテスト」行われる

文・写真 町民記者 菅家壽一さん（間方）



検定の緊張感から解放され
安堵の表情で講評を聞く受験者

2月14日、町営スキー場において、三島スキークラブ主催によるバジテストが行われました。スキークラブでは、毎年この時期に実施しています。バジテストは全日本スキー連盟が定めるアルペンスキーの技能テストで、級別テスト(1～5級)とジュニアテスト(1～6級)があり、自分の滑りの腕前ならぬ足前を確認するのに最適です。今回、級別テストに2名、ジュニアテストに3名が挑戦し、全員がそれぞれの級に合格されました。後日バジが渡されます。おめでとうございます！さらに上を目指して頑張ってください。町営スキー場は、小さいながらも、学校教育や社会教育に、雪国に暮らす私たちの生涯スポーツにとって、かけがえのない身近な運動施設です。近隣のスキー場が、持続困難な状況になっていく中で、おにぎりを持って行けば、一日中遊べる身近なスキー場があることは素晴らしいことです。スキー場のある地区のみなさんや町民のみなさん、そして、スキー場の運営に関わってくださっている全ての皆さんに、感謝したいと思います。



世界に一つだけの？「コースター」出来たよ ～子どもと高齢者の交流事業～

文・写真 町民記者 小島 純さん（宮下）



千代紙により「鶴のコースター」を作った参加者の方々

宮下分館と宮下地区が例年行っている「ふれあい事業」が2月21日、宮下活性化センターにおいて、近藤勇彦さん（宮下）を講師に千代紙を使用した「鶴のコースター」作りを行いました。宮下、荒屋敷、中平地区の方々約40名が参加し、世界に一つだけのコースター作りに励みました。終了後には、地元有志の皆さんが作った「すいとん」が振る舞われ、参加された方々は充実した一日を過ごしました。



川井友愛サロン 2月の行事

文・写真 町民記者 角田伊一さん（川井）



川井友愛サロンで行われた「元気でまっせ体操」

川井友愛サロン（代表角田タニ子さん）の2月の行事は、「元気でまっせ体操」でした。17日はあいにくの雪降りでしたが、集合時間の午前10時には大勢の同好会員が川井集会所に集まりました。元気でまっせ体操とはどんな運動をするのか期待と不安で、落ち着かない会員も居たようですが、地域包括支援センターの片山先生からユーモアたっぷりのご挨拶を頂き、テレビモニターを見ながらの、楽しいストレッチ体操にすっかりのめり込んでしまいました。足腰伸ばし体操で体をほぐし、元気の出たところで片山先生を囲んでの茶話会も大盛会でした。同行されて、いろいろと助言をたまわった町民課の五十嵐義展さんのお話も大変有意義でした。

みんなの公民館

●三島町公民館
☎(48) 5599

◎川井地区で筑波大の学生による光のアート展

自然エネルギーを利用した光のアート展覧会「森光水」は2月8日から14日まで、川井地区で行われました。昨年に続く県事業「森のはこ舟アートプロジェクト」の一環で、筑波大の逢坂卓郎特任教授と村上史明准教授、学生18人が地区内



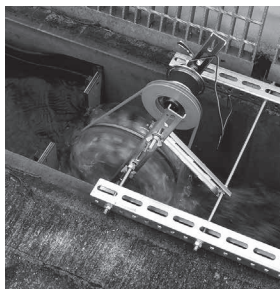
川井地区に展示された光のアート作品

の数力所に作品を展示。高輝度のLEDライトや光ファイバーなどを使用し、雪景色と一体となった光の美しさを表現しました。(7ページに関連記事)

学生たちは当町での調査からヒントを得て制作。編み組細工やキマダラルリツバメなど、町の文化や自然を表現した作

品に仕上げ、点滅させるプログラムなどにも工夫を凝らしました。

電力供給には会津みしま自然エネルギー研究会(岩淵良太会長)が協力。メンバーの石川彰さん(大谷)、小栗文夫さん(大谷)が地区内の水路に設置した水車で発電し、アート作品まで配線してライトを点灯しました。さらに日産自動車からEV車からの電力供給に協力。その電力は会津若松市の風力発電所で蓄電し、自然エネルギーにこだわりました。展示期間中は午後5時30分から3



水路に設置された水車発電



川井地区で活動した筑波大の学生たち

時間ほど点灯し、川井地区に優しい光の空間が浮かび上がりました。

学生の滞在中は、森田喜美代さん(川井)、長谷川洋子さん(川井)らが食事提供などに協力しました。またプロジェクトの事務局として、三澤真也さん(浅岐)、五十嵐健二さん(宮下)が事業運営に当たりました。

このプロジェクトは来年度も継続する予定で、大学や企業との交流から新たな展開を図ります。

●Book Review

町民センター図書コーナー ゆめぼけっと
●利用時間 ⑨～⑫ 9:00～21:00 ⑩⑪ 9:00～17:00 ●お休み 年末年始

※各種雑誌をそろえています。持ち出しはできませんので、図書コーナーでご覧ください。



たまごクラブ
ひよこクラブ
ベネッセ

妊娠・出産・子育てに戸惑うママたちの気がかりを解消し、幸せな育児生活を応援。離乳食の進め方や赤ちゃんのお世話、病気のケアなど役立つ情報たっぷり。



山と溪谷
山と溪谷社

登山愛好者に人気の情報誌。3月号の特集は「総点検!山の"カラダ"」。一生、登山を続けるために、自分の体を知り、体力をつけよう。



壮快
マキノ出版

健康長寿に関するさまざまな情報を掲載。4月号の特集は「病気を治したければこのスープを飲みなさい」。

町史編さん室だより

第2回

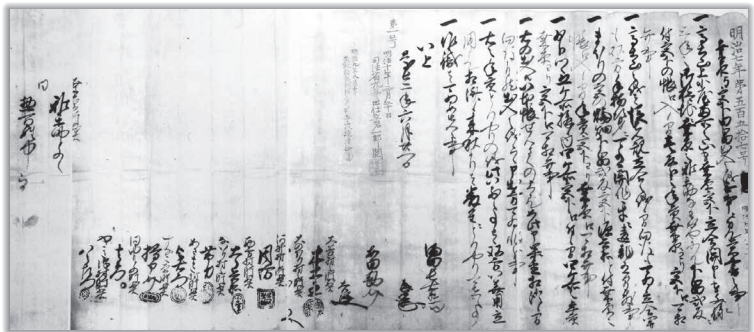
現存する三島町最古の古文書

三島町で発見された古文書のなかで最も古いものは、桑原の河越卿さんの家から見つかった桃山時代のものです。

この時期に、豊臣秀吉が行った「太閤検地」により、土地と年貢の権利関係が明らかになるにつれ、村と村との境界が明確になりました。そのため、各地で土地所有をめぐる「出入」(争い)が起るようになりました。

桑原村と宮下村も、文禄三年(二五九四年)の検地帳への書き込みの誤りがもととなり、双方が開発した焼畑の所有権をめぐって出入となり、慶長二年(二五九七年)に近隣の村々の肝煎(村の代表)等の調停で解決しました。

その際、桑原村の肝煎に手渡されたのが今回紹介する史料となります。原書のまま、紛失もせず今に残されたことは驚くべきことで、大変貴重なものです。



当町に現存する最古の古文書

慶長二年六月桑原と宮下田畠出入之儀無事ニ付覚書之事

もし、ご家庭に古い文書などがございましたら、交流センター山びこまで一報ください。☎(52) 2165

桑原と宮下田畠出入の儀、無事につき覚え書の事

一 高土山、上小屋両所の山は、桑原、宮下立ち会い開き申すは、文禄三年の御検地に、桑原の雅樂助なわおやにて下畠二反に付き宮下の帳へ入れ候間、一反分の年貢桑原より宮下へ相べんずべき事

一 高土山の儀は先規に従い立ち合いの儀候間、向後も立ち会いさすべく、開くも双方手柄次第にあるべく、開作互いに違乱あるまじき事

一 まほりの宮の焼畑下畠二反宮下源兵衛と付け、桑原の帳へ入れ候間、年貢宮下より桑原へ相べんずべき事

一 少分つつ五ヶ所構え候うち、四ヶ所宮下へ付け候間、四ヶ所の年貢桑原より宮下へ相べんずべき事

一 右の出入りとも、本帳を以てせんさくの上にてこの如く申し、果金相済候間、向後自然出入りの儀候はば、申し出方非分たるべき事

一 右の年貢とりやりの儀、この以前の事は

双方算用を以て用立て相済候、来秋よりは嚴重にとりやりあるべく候事

一作職は先々の如くなすべき事以上

慶長二年六月二十一日

満田長右衛門 花押

安田勘介 花押

大谷村肝煎 李之丞 印

大のほり村之肝煎 十郎左衛門 花押

河井村之肝煎 周防 印

西方村肝煎 太郎兵衛 印

ないり村之肝煎 帯刀 印

あさまた村肝煎 与右衛門 印

すなこ原村肝煎 掃部介 印

同ゆもとの肝煎 十郎右衛門 印

やき澤村肝煎 八郎左衛門 印

桑原肝煎 雅樂助とのへ

同 惣百姓中

まいる

※原文には句読点も送り仮名もなく、これは読み下したものです。



民話

第60話 布地蔵

元話 故 小柴 モトさん(西方)
再話 五十嵐 七重さん(西方)

むかし あったどお

じい様とばあ様が やったどお

いつつも いつつも じい様は山さ木切りさ行くだどお

ばあ様は いつつも いつつも 機織りしったどお

さで 春木切りの頃だ。冬じゅう機織ってた ばあ様

「じい様 じい様。これ 三年みつきと二十九日かがって こしやった布だ。

たっぷりど一反あつから 売ってきてくんつえ」

「なんだとまあ、にしても 根気の良いやつだなあ。有り難え 有り難え。

早速町さ行つてこべえ」

つうど 町さ出掛けだどお。村下まで来たらば 地蔵様おらつてなあ、今朝

がらの春雪かぶつて もぞおせえなあど 思つたつけど。

「ののやゝゝのの(布) ののやゝゝのの(布)」

じい様 ずなゝい声で じなつても、なんぼう歩いでも歩いでも ねっか 布

は売れねえだどお。

「ののやゝゝのの(布) ののやゝゝのの(布)」

しもかみ歩つても 売んにえ

「なんとも しょうねえなあ、ばあ様もがっかりしんべなあ」

晩方にはなんべえし寒くはなんべえし、帰るほがねえど思つてばあ様の事思つ

たらば、地蔵様んどごも思つつけだど

「んだ んだ、地蔵様だ。買手がねえだから・・・」

つうど、じい様 ドンドン村さもどつて来やつたど。

「地蔵様 地蔵様、のの(布) 売んにやがった。地蔵様あ どうが受けどつて

くんつえまあだ雪も降る。雨も降る」

つうど 地蔵様さのの 巻いてくつちやどお。せえがらトットコ家 came だどお。

「ばあさん ばあさん、のの(布)は売んにえがったから、地蔵様に着せで来たぞ」

つったら ばあ様も、大喜んびしやつてなあ

「それは 良いごじやつたわあ。なんぼう喜んびやつたべえわ」

つうど、地蔵様のごと 語りかたり 寝やつたそうだ。

したらば 今度あ夜中んなつて にぎやかな声に目えさめだどお

のの(布)ゝ爺は どごだんべえゝ

のの(布)ゝ婆は どごだんべえゝ

のの(布)ゝ爺は どごだんべえゝ

のの(布)ゝ婆は どごだんべえゝ

夜中だもの、じい様とばあ様は ふとん つつかぶつて朝んなつたどお

そんじえ そろそろ庭さ出たら 家前えにピッカピッカのカネが

えつぺえ えつぺえ あつただどお。

のの(布)ゝ爺 ザックラシヨ

のの(布)ゝ婆 ザックラシヨ

ざつと むかしがさかえた ど

ほめことば

五十嵐 フミイさん(大谷)

今日は目出度い祝いの日 めでたづくしでほめましょう

まずはきたの家 旦那のそのたいは

お客様に御馳走たくさんしんぜたい

おこどもさんのそのたいは 飲みたい食いたい遊びたい

お若い衆のそのたいは 逢いたい見たい添いたいと

年寄り衆のそのたいは 孫子たくさんもうけたい

さゝて私のそのたいは おん客様に心の底から笑ってもらいたいと

ほ ほ 敬つて申すゝゝ

平成 28 年 3 月 12 日(土)・13 日(日) 開催

第 35 回 三島町生活工芸品展 9:00～16:00 生活工芸館

第 15 回 全国編み組工芸品展 9:00～16:00 交流センター山びこ

入賞者表彰式、展示販売、実演、体験コーナー



⑩当日は大変込み合うことが予想されます。また雪が降ることもある時期ですので、お車の運転などには十分注意してお越しください。

問生活工芸館 ☎ 0241 (48) 5502 福島県大沼郡三島町大字名入字諏訪ノ上 395
<http://www.okuaizu-amikumi.jp>

三島町議会議員

一般選挙のお知らせ

4月17日(日)

棄権しないで
投票しましょう。

◆投票時間 午前7時から午後6時まで

※お届けする入場券をご持参ください。紛失した場合でも、選挙人名簿に登録されていれば投票できますので、受付に申し出てください。その際は身分証明書等の提示をお願いします。

【期日前投票】 4月13日(水)から4月16日(土)まで

場所 町民センター

時間 午前8時30分から午後8時まで

問三島町選挙管理委員会(総務課内) ☎ (48) 5511





病棟看護師のつぶやき

福島県立宮下病院

主任看護技師 倉橋祐次

手指には、一時的にしか生存できないウイルス・微生物が存在することがあります。普段気をつけていても、微生物は口や鼻の粘膜から体に侵入し、様々な病気を体に及ぼすことがあります。そのため、病院で行われる感染予防対策の基本は、「手指衛生」「手洗い」です。「手洗い」は、病院の感染予防のみならず、誰もが家庭でできる感染予防のひとつです。見た目はきれいに見える手でも、微生物はたくさんついています。ドアノブや洗面所、トイレ周辺などよく手を触れる場所は、手についた微生物で汚れやすい箇所と言えます。手をきれいに保つためには、「掃除」と「手洗いのタイミング」が重要です。特に「手洗い」は、外出後、食事の前、トイレの後、掃除の後、ご家族の介護の前後に行うことで、手についた微生物を汚れと一緒に洗い流すことができます。「手洗い」の重要性を家族で理解し、継続して手洗いを行うことは、病気の予防、家庭での感染予防に役立ちますので、心がけて実施していきましょう。

ご寄附 ありがとうございました

町社会福祉協議会へのご寄附
(ご遺志によるもの)

大 竹 重 壽 様 (滝 谷)

角 田 善 一 様 (浅 岐)

久保田 昭 英 様 (間 方)

五十嵐 一 浩 様 (大 谷)

佐 藤 実 様 (宮 下)

五十嵐 功 様 (大 谷)

長 郷 春 雄 様 (間 方)

目 黒 良 雄 様 (滝 谷)

地域ふれあいサロン

浅岐あったかサロン

3月9日⑥ 10:00～

浅岐集会所

サロン名入

3月18日⑥ 10:00～

名入公民館

町社会福祉協議会 ☎ (52) 3344

町の人口と世帯

2月1日現在

人口	1,765	-1	出生	1
男	856		死亡	1
女	909	-1	転入	2
世帯	789		転出	3

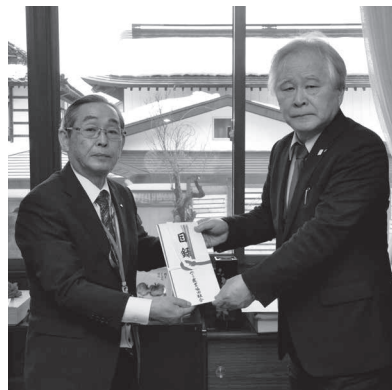
③住民基本台帳による数値です。増減は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

ご寄附

ありがとうございました

会津みどり農業協同組合
が町に寄附

会津みどり農業協同組合長谷川正市代表理事組合長が、3月1日の合併に伴い、余剰金を町に寄附しました。2月9日、高畑三則代表理事専務が役場を訪れ、矢澤町長に目録を手渡ししました。



矢澤町長に目録を手渡す高畑代表理事専務

3月の納税

納期限 3月31日

▶国民健康保険税 随時

▶介護保険料 随時
(普通徴収)

▶後期高齢者保険料 随時
(普通徴収)

忘れずに納付ください。

役場 町民課

国家公務員 採用試験

人事院では次のとおり国家公務員採用試験を実施します。申し込みはインターネットで行ってください。

◆総合職試験 (院卒者・大卒程度)

申込受付 4月1日⑤～11日⑥

第1次試験 5月22日⑥

◆一般職試験 (大卒程度)

申込受付 4月8日⑤～20日⑥

第1次試験 6月12日⑥

◆一般職試験 (高卒者)

申込受付 6月20日⑥～6月29日⑥

第1次試験 9月4日⑥

※申込方法や受験資格など詳しくは、人事院ホームページまたは下記までお問い合わせください。

④人事院東北事務局 第二課試験係

☎ 022 (221) 2022

人事院ホームページ

<http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>

国税専門官 採用試験 (大卒程度)

国税専門官は国の財政を支える重要な仕事を担い、税務署等において調査・徴収・検査や指導などを行う税のスペシャリストです。

◆受験資格 ①昭和61年4月2日から平成7年4月1日生まれの者

②平成7年4月2日以降に生まれた者で次に掲げる者 (1) 大学を卒業した者および平成29年3月までに卒業する見込みの者 (2) 人事院が (1) と同等の資格があると認める者

◆受験申込受付期間

①インターネット 4月1日⑤～13日⑥

②郵送・持参 4月1日⑤～4日⑥

◆受験申込方法 原則インターネットによる申し込みとします。郵送または持参用の受験申込書は、最寄りの税務署で配布します。

◆第1次試験 5月29日⑥

④仙台国税局 人事第二課

☎ 022 (263) 1111

会津坂下警察署からのお知らせ

三島町での刑法犯(1月) 0件

架空請求詐欺にご用心!

昨年の県内における架空請求被害は、**48件で1億7千9百万円**です。

被害にあわないために!

①知らない会社などからの電話やメール、FAXで

「**サイト料金が未納です**」

「**法的手続きをとります**」

との通知がきたら、支払う前に警察へ相談してください。

②コンビニエンスストアなどでインターネット用ギフト券や電子マネーを購入させ、IDを教えるよう要求するのは詐欺なので、絶対に教えないでください。

還付金詐欺にもご用心!

役所等の公的機関の職員を名のり、「医療費の還付金があります」等と話す不審電話が相次いでいます。ATMを操作して還付金を受け取ることはありませんので、ご注意ください。

街頭犯罪発生件数 (1月)

区 分	管 内	三島町
強 盗		
空き巣ねらい	1	
忍 び 込 み		
事務所荒らし		
出 店 荒 ら し		
自 動 車 盗	1	
オートバイ盗	1	
自 販 機 ね ら い		
車 上 ね ら い		
ひ っ た く り		
部 品 ね ら い		
強制わいせつ		
街頭犯罪合計	3	0
その他刑法犯等	6	0
全 刑 法 犯	9	0

※全刑法犯には街頭犯罪以外(器物損壊、暴行、傷害、万引き、詐欺など)の犯罪発生件数が含まれます。

無防備な 心に火災がかくれんぼ

春季全国火災予防運動
3月1日⑥～7日⑥

空気が乾燥して火災が発生しやすい季節になりました。火災予防運動は、住民の皆さまに防火に対する意識を一層高めていただき、火災の発生を防止することにより、尊い生命を守り、貴重な財産の損失を防ぐことを目的としています。



火事と救急・救助は 119番

会津坂下消防署 三島出張所

☎ (52) 3032

三島町での除雪ボランティア 10年

ご支援・ご協力ありがとうございました



高齢者の方も覚えがないほど雪の少ない冬となりました。それでも、いつもの冬は、いつ「ドカ雪」に見舞われるのかと、雪国特有の不安が付きまといまいます。高齢者の方にとっては、なおさらのことかと思えます。そうした不安と、肉体的困難を抱える降雪時期に、毎年、いわき明星大学では災害ボランティア演習として三島町に入り、高齢者宅等の除雪ボランティアを実施しています。平成18年から活動が始まって、今年でちょうど10年を迎えました。除雪作業という直接的なものに加え、若い方の思いやりの姿勢が安心感につながっているように感じます。今年は、学生、教授合わせて20名が2月6日から8日まで滞在し、中日を金山町での活動とし、三島町では高齢者宅9戸、公共施設2ヶ所の除雪を実施しました。



桧原地区

文・写真 町民記者 佐々木邦雄さん(桧原)



いわき明星大学の除雪ボランティアが2月6日から8日までの3日間、三島町・金山町に訪れました。同大学の学生は毎年高齢者世帯の除雪に貢献されています。今年は例年になく降雪が少ない年でありましたが、高齢者宅においては少しの雪でも大変苦労しています。桧原地区では2月6日の午後から教員1名、学生2名、社会福祉協議会、地区民生児童委員の計5名で実施されました。終了後には住民から感謝の言葉が伝えられました。大変ご苦労様でした。



西方地区

文・写真 町民記者 本名与四郎さん(西方)



2月7日、午後7時より西方ふさとセンターにおいて、いわき明星大学生による雪かきボランティアとの「西方地区交流会」が行われました。今年は、例年になく積雪が少ない状況ではありましたが、桧原、西方、沼田、中田各地区における一人暮らしの住宅脇や西隆寺参道や三島保育所軒下を中心に3日間の予定で雪かきボランティア活動が行われました。参加人員は男子学生16名と教師4名の総勢20名がふさとセンターを宿泊先として自炊生活をしながら活動しました。交流会に参加したいわき明星大学を代表して福田教授の挨拶を皮切りに、大学生や地区役員が一人一人自己紹介を行い、交流を深めることができました。また、区長の二瓶辰雄さんがおもてなしの気持ちとして、体の芯から温まる「肉汁」を提供され、学生の皆さんや先生方は会津ならではの冬の味覚を堪能していました。

町長日記(不易流行) No. 8

北海道大学の研究チームが「働きアリ」の法則について新たな視点から、英科学誌に論文を発表したと各テレビ局等が報じていました。以下の内容でした。「集団の中には必ず2割程度は働かない働きアリがあり、他のアリが疲れて働けなくなったときに代わりに働く。卵の世話をする。集団の長期存続のためには、この様なアリの存在が必要である」という研究成果を発表」という報道がなされていました。

研究の中心を担った長谷川先生は「働かないアリを常駐させる非効率的なシステムが集団の存続には欠かせない。人間の組織でも短期的な効率や成果を求めると悪影響が出ることもあり、組織を長期的な視点で運営することの重要性を示唆する結果でないか」と話しておられました。

某野球球団が、熾烈な競争を勝ち抜き日本一を奪還するため、各球団から4番を打つ一流選手を引き抜き戦ったが、結果目的を達成できなかったという事もありました。スター選手ばかり集めても「仕事師集団」を作れるとは限らないのです。

組織のマネージメントを考えると、常に2:6:2の原則があると言われております。先ほどのアリの研究も、常に2:6:2の原則があり、2割は良く働く、6割は普通に働く、残りの2割はあまり働かない。良く働く2割のアリを取り除くと、不思議と、残ったアリで2:6:2の組織体制になると言われております。

三島町役場の組織体制の考え方は、先ほどの長谷川先生の研究にありましたように、人間の組織も、短期的な効率を追求すると、組織として大きなダメージ受けるという言葉を受け、6割を引き上げる意識改革を考えて行くことが肝要であると考えます。型を作る事も大切ですが、それを運用するのは人間です。様々な角度から考え、町民の皆様の負託にこたえて行きます。

三島町長 矢澤 源成